

TAKE FREE

国立市 観光ガイドマップ



発行：国立市

国立市アクセスマップ

国立市は東京都のほぼ真ん中に位置します。東は府中、北は国分寺、西は立川、多摩川をはさんで南は日野市と接しています。



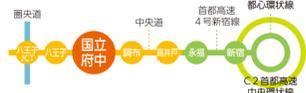
電車でのアクセス



国立にはJRの駅が3つあり、アクセスが便利な市です。JR中央線で新宿駅から国立駅まで約33分。川崎方面からはJR南武線で谷保駅または矢川駅まで約50分。

車でのアクセス

中央自動車道国立・府中インターすぐ。高速バスあります(羽田空港、大阪駅から谷保駅まで)。



国立市概要

面積：8.15平方キロメートル
人口：76,534人(2020年6月1日現在)
世帯数：38,564世帯(2020年6月1日現在)

市の鳥：シジュウカラ
市の花：梅
市の木：イチヨウ
市の色：みどり

発行日：2020年6月 改訂・非売品
発行元：国立市
電話：042-576-2111(代表)
制作協力：国立市観光まちづくり協会



くにたちのあゆみ

History of Kunitachi



縄文時代 紀元前 4000 年前 顔面把手付土器 01



02 四家在家遺跡 [B-4]

7世紀の古墳時代、この地に暮らした豪族の墓。多摩川の河原石を積み上げた横穴式石室で、南部の四軒在家公園に移築され、保存されています。



03 赤い三角屋根の旧国立駅舎

大正15年、町を開発した箱根土地(株)が当時の鉄道省に駅舎を寄付し、国立駅が開業。JR高架化にともなう解体されましたが、令和2年4月に再築・開業へ。(くにたち郷土文化館提供)



04 一橋大学兼松講堂 [D-2]

異色の建築家・伊東忠太により建てられたロマネスク様式の講堂は、随所にみられる魔物の装飾も魅力的です。コンサートや公開講座で市民にも親しまれています。



05 大学通りの桜 [D-2/D-3]

昭和8年の皇太子生誕を記念して、国立町会が桜の植樹を決定。谷保村青年団国立支部の若者たちが苗木の世話に協力し、見事な桜並木が誕生しました。



06 一橋大学兼松講堂 [D-2]

異色の建築家・伊東忠太により建てられたロマネスク様式の講堂は、随所にみられる魔物の装飾も魅力的です。コンサートや公開講座で市民にも親しまれています。

このまちのルーツをたどる

豊かな水源に恵まれて、縄文時代以前から人々が集まり、農業を営んできた谷保村。昭和2年、都心から大学が移転してきたことで「国立」となり、独自の発展を遂げました。先人たちが歩んだ歴史を振り返るとこのまちの魅力的な個性がみえてきます。



06 文教地区指定 [D-1]

戦後、立川駐留の米軍の影響による環境悪化をめぐって浄化運動がおこり、昭和27年、駅南側の85万坪が、学園都市にふさわしい文教地区に指定されました。



07 アンネのバラ

『アンネの日記』で知られるアンネ・フランクをしのんでつくられた新種のバラ。父オットー氏から日本にも贈られ、平和都市宣言の記念に植樹されました。



08 府中用水 [B-4/C-4 ほか]

江戸時代、多摩川の流れを引き入れた全長6キロの農業用水。写真は、青柳にある取水門の昭和初期の様子ですが、今でも現役で活躍中。(くにたち郷土文化館提供)

1923(大正12)年 関東大震災おこる

1924(大正13)年 箱根土地(株)による100万坪開発はじまる

1926(大正15)年 国立駅開業 03

1927(昭和2)年 東京商科大学(現一橋大学)専科移転 兼松講堂落成 04

1928(昭和3)年 滝乃川学園が豊島区より移転(日本初の知的障がい者の施設)

1930(昭和5)年 東京商科大学 本科移転

1934(昭和9)年 国立町会、谷保村青年団が大学通りに桜を植樹 05

1945(昭和20)年 第二次世界大戦終結

1951(昭和26)年 谷保村が国立町になる。町制施行

1952(昭和27)年 国立町が文教地区指定に 06

1967(昭和42)年 国立町、国立市となる 市制施行

2000(平成12)年 国立市平和都市宣言 07

2006(平成18)年 府中用水が全国疎水百選に選ばれる 08

2020(令和2)年 旧国立駅舎がまちの魅力発信拠点として再築・開業

イベントカレンダー 日本の伝統的なお祭りや季節ごとのにぎやかな市には、毎年多くの方が訪れます。ぜひおいでください。

Spring

春

3~5月



梅まつり

2月最終土曜・日曜 [D-4] 谷保天満宮といえば道真ゆかりの梅林。紅白の梅を愛でながら、野点(のたて)やお琴、二胡の演奏会、稚児舞「紅わらべ奉奏」が披露される風流な行事です。



さくらフェスティバル

4月上旬土曜・日曜 [D-3] 谷保第三公園で、さくら通りの桜を楽しみつつ開かれるイベント。地元野菜の即売会や模擬店、はしご車体験、フリーマーケットなど家族連れでにぎわう2日間。



さくらウォーキング

桜咲く日曜 大学通りや根川緑道など、国立から立川にかけての桜の名所を歩いてめぐります。コースは約9キロ、3時間程度。途中さくらフェスティバルの会場を通ります。



LINKくにたち

5月中 [D-2] 大学通りを歩行者天国にして行われるスポーツイベント。3時間耐久リレーマラソンのほか、市内のスポーツ系団体がイベントを行います。

Summer

夏

6~8月



あじさい祭り

6月下旬の土曜・日曜 [D-4] 谷保天満宮のあじさいは、市民の寄付によって28種類、約800株が咲きそろい、初夏の夜を彩ってくれます。夕方から夜にかけて、お囃子などの催しも。



ほおずき市

6月下旬 [D-4] 朱色のほおずきは、昔は薬草として珍重されていたそうです。谷保第一公園(通称汽車ポッポ公園)にて、ミニSLや音楽ライブ、模擬店などのおまつりが開催。



くにたち朝顔市

7月第一週土曜・日曜 [D-2] 市内の生産者「朝顔の里」で育てた朝顔が、大輪の見事な花を咲かせて早朝の大学通りにズラリ。浴衣姿のお客さんも多く、江戸風鈴の音色も涼しげに響きます。



盆踊り

7月半ばから8月末 夏の風物詩といえば、やぐらの周りに輪になって踊る盆踊り。太鼓の音もにぎやかに、市内の公園や校庭で大小20もの盆踊りが、夏の間、次々と開催されます。

Autumn

秋

9~11月



例大祭

毎年9月25日 [D-4] 谷保天満宮では、古式獅子舞(国立市無形文化財)、万灯行列、江戸里神楽奉納など伝統的な神事が行われ、市内各所には神酒所が設置、神輿や山車も出てにぎわいます。



市民まつり・天下市・一橋祭

11月中 [D-2] 商店が出店する天下市の最終日は市民まつりも重なり、大学通りは歩行者天国になってパレードやパフォーマンスが楽しめます。一橋大学では学園祭が開催されます。



おかから火

11月3日 [D-4] 谷保天満宮拜殿の前に高さ3mの二つの薪の山を積みあげ、18時に一斉に点火。煙にあたると無病息災に。その年についた嘘を解消にする「うそ替え神事」にも注目。



農業まつり

11月半ば土曜・日曜 [C-4] 地元農家の新鮮野菜・谷保米の即売会に、農産物品評会。くにたち野菜もあります。農家の皆さんが作る野菜の宝船をぜひご覧下さい。

Winter

冬

12~2月



旧車祭

12月第一週の日曜 [D-4] 百数年前、日本で初めて交通安全折願が行われた谷保天満宮。それにちなんで、境内や谷保周辺に全国からクラシックカーやスポーツカーが集まり、市内を走行します。



イルミネーション

12月 [D-2] 大学通りの10本のイチヨウに輝く9万個のLED、旭通りの8mのモミの木など、市内の商店会では工夫を凝らしたイルミネーションが、冬の夜に美しく輝きます。



除夜の鐘・初詣

12月31日~1月上旬 [B-4/D-4] 南養寺では、大晦日の夜、誰でも除夜の鐘をつくことができます。また学問の神様をまつる谷保天満宮には、多くの受験生が合格祈願の絵馬を奉納しに初詣に訪れます。



どんど焼き

1月半ば 谷保第三公園をはじめ、市内各所で正月飾りやお守りなどを集めて、お焚きあげを行います。細い竹の先につけた糰子とよばれるお団子がふるまわれ、炎で焼いて食べます。

文化と自然、どちらも大好き!

学園都市と農ある暮らしが楽しめるまち

JR中央線の国立駅を降りると、目の前には、木々に囲まれた広くて美しい大学通りが、南に向かって真っすぐに伸びています。商店街を抜けると、両側には若者たちが行ききかう一橋大学があり、構内にはアカマツの大木など、かつての武蔵野の森の名残を見ることができます。国立市は、小さな村が大学の移転をきっかけに発展してきた、平和で暮らしやすい学園都市です。

一方、歴史ある谷保天満宮の南では、今でも多くの農家が、米や新鮮な野菜、果物を生産しています。田畑を支えているのは、豊かな湧き水や農業用水。そのまわりには、野鳥や昆虫、魚など多様な生き物が棲み、大人も子どもも自然の恵みを体験できる、貴重な環境になっています。くにたちは都市の文化と農ある暮らしの両方が楽しめる、稀有なまちなのです。



季節を感じる大学通り

春には桜、夏の新緑、秋にはイチヨウの木々が両側を彩る大学通り(幅44m)。新東京百景にも選ばれた人気の散歩道です。



谷保天満宮

学問の神様、菅原道真をまつる谷保天満宮の遷座は1181年。この地の農業を守る氏神様でもあり、毎年秋には例大祭が開催されます。



学園都市とアート

一橋大学、東京女子体育大学、桐朋学園など、多くの教育機関に加え、20以上のギャラリーや彫刻作品が点在するアートのまちです。



多摩川から眺める富士山

南部を流れる多摩川沿いにはサイクリングロードが整備され、朝に夕に、丹沢山系の向こうに雄大な富士山を見ることができます。



気軽においしいグルメ

おいしい飲食店や、個性的なカフェ。こだわりの国立スイーツをお土産に。

▶おみやげは [くにたちスタイル](#) で検索

▶店舗ガイドは [国立ショッピング情報](#) で検索



新鮮・おいしいくにたち野菜

ほうれん草や小松菜、大根、なすにトマト、梨など、新鮮野菜や果物は市内各所の直売所で買うことができます。

▶直売所情報は [くにたちあぐリッポ](#) で検索



大学通り(秋) [D-2/D-3]

春には、満開のソメイヨシノの下をそぞろ歩きできる大学通り。秋にはイチョウの紅葉を眺めながら季節の変化を楽しみます。



一橋大学 国立市中2-1 [D-2]

産業界に多くのリーダーを輩出してきた社会科学系国立大学法人。関東大震災で被災した神田から国立に移転。



東京都多摩障害者スポーツセンター 国立市富士台2-1-2 ☎042-573-3811 [D-3]

障がいをもつ人がスポーツを楽しむようにプール・体育館等を設置し、各種教室を実施。納涼祭等には誰でも参加できます。



矢川緑地(東京都保全指定地域) 立川市羽衣町3丁目 [A-3/B-3]

立川市との市境にあり、湿地帯の樹木に野鳥もやってくる小さなオアシス。緑地の湧水を集めた矢川が南へと流れていきます。



青柳稲荷神社 国立市青柳236 [A-4]

地域を守るお稲荷さんの守り神は石造りのキツネ。1月どんどんど焼き、2月初午、8月盆踊り、9月月夜祭が開催されます。



南養寺 国立市谷保6218 [B-4]

臨濟宗建長寺派の禅寺。本堂は江戸中期の再建。大晦日のみ公開される観音堂の故・前田常作氏の天井マンダラ画は必見です。



さくら通り(春) [B-3/C-3/D-3]

毎年春に、枝を伸ばした桜がつくるアーチの風景は本当に美しく、写真撮影の人気スポットのひとつです。



くにたちアートビエンナーレ [D-2]

2015年にスタートした2年ごとの芸術祭。2015年の野外彫刻展受賞作品6点が、大学通りに設置されています。



くにたち市民芸術小ホール 国立市富士台2-48-1 ☎042-574-1515 [C-3]

336人収容のホール、70人規模のスタジオ、音楽練習室、ギャラリーなどを備えた市のアート関連施設。隣は総合体育館。



ママ下湧水公園 国立市矢川3-12 [B-4]

ママとは土地の言葉で産線のこと。南部の産線下にある10カ所ほどの湧水ポイントのなかでも、最大の水量があります。



滝乃川学園本館(国登録有形文化財) 国立市谷保6312 [B-4]

日本初の知的障がいの人々のためのキリスト教系福祉施設。昭和初期に建てられた本館は10月末の文化財ウィークに一般公開。



多摩川サイクリングロード [B-5]

多摩川河川敷にはサッカーや野球のグラウンドがあり、川沿いのサイクリングロードを自転車で行けば、東京湾まで行けます。

国立市観光ガイドマップ

国立の市章 梅の花
梅の花の五弁の花びらをあしらい、二重の外側は「国」のかまえを表し内側は「立」と文教の「文」を示しています。関保寿氏作。

天使のピアノ [B-4]
滝乃川学園の創立者の妻・石井筆子が愛用したピアノ。1885年横浜で製造された国内最古のもの。

ひまわり畑 [C-4]
2メートルを超えるひまわりの畑。7月から8月にかけてメイズガーデンが楽しめます。

多摩川梨 [D-4]
水源に恵まれたこの地域は、多摩川梨と呼ばれるみずみずしい梨の産地でもあります。

城山公園のニリンソウ(左:4月頃) キツネノカミソリ(右:8月頃) [C-4]

産線(がいせん)
古代多摩川が台地を削ってきた産線。台地に降った雨が地中深く溜り、湧水となって湧き出ています。

タクリー号
日本初の国産ガンリン自動車。写真はレプリカですが路上運転可能。旧車祭で見られます。

くにニヤン
国立市の旧国立駅は赤い三角屋根の駅舎でした。くにニヤンはそこに出入りしている猫の妖精。

美しい大学通り
美しい大学通りを歩くときは、レトロで瀟洒な街路灯にもご注目。1985年にフランス・レンツ社から直輸入したものです。

この通りは富士山が見えるから富士見通り

境内のアカツツは原生林至今に残っているよ

さくら通りの桜並木のトンネルは圧巻です!

自転車にもお散歩にも気持ちのよい土道です

赤い三角屋根の旧国立駅舎

旧国立駅舎ってナニ?

谷保天満宮と並ぶ、くにたちのまちのシンボル「旧国立駅舎」。開業した1926年(大正15年)から2006年(平成18年)までの80年間、まちの玄関口として、あるいは待ち合わせ場所として、市内の人にも市外の人にも親しまれてきました。都内では、原宿駅舎に次ぐ古い木造駅舎で、2006年には国立市有形文化財建造物に指定されました。

三角屋根で“まちあわせ”

2006年、JR中央線の高架化に伴い、借られながら駅舎としての役割を終えた後、丁寧に解体され、部材は市の保管庫に保存されました。市民から多くの寄付が集まり、2018年には再築がはじまりました。再築後の旧国立駅舎は、広間・まち案内所・展示室の3部屋で構成され、2020年4月、まちの魅力発信拠点として、ほほ元の場所に戻ってきました。活用のキャッチフレーズは「三角屋根で“まちあわせ”」。これはもともとの駅舎の機能である「待ち合わせ」にまちと出会う「街合わせ」という意味を込めたものです。旧国立駅舎を拠点にまちを巡り、くにたちの魅力を再発見していきましょう。

凡例

- 交番
- 消防署
- 公園
- 両替
- JA 農業協同組合
- 神社仏閣
- 市役所
- 学校
- 公衆トイレ
- 郵便局
- 温泉・銭湯
- 路線バス
- くにっこバス
- 桜の見所
- 商店会地域
- 河川・用水

市民トイレ(お店のトイレを利用可)

- ポポロショッピングセンター [D-2]
- 紀ノ国屋国立店 [D-2]
- 西友青柳店 [A-3]
- ふぁりーさぼーと [C-2]
- 東京都多摩障害者スポーツセンター [D-3]
- どれたの/cafe こたの [D-4]
- ややこし屋 [D-4]
- たまり場 宙 [D-4]

救急 ☎119 警察 ☎110
多摩交通(タクシ-) ☎042-572-3161
銀星交通(タクシ-) ☎042-575-0458



谷保天満宮 国立市谷保5209 [D-4]

東日本では最も古い天満宮で、狛犬などが国指定重要文化財となっています。静かな森の境内に地域の彫刻家関敏氏の作品も。



城山公園(東京都歴史環境保全地域) 国立市谷保1700 [C-4]

中世の豪族の城館跡。武蔵野の樹林が多く残っています。4月下旬にニリンソウ、8月下旬はキツネノカミソリが見頃です。



府中用水(農林水産省・全国疎水百選) [B-4/C-4 ほか]

夏の間、農地を網のように流れる用水には小魚が棲み、希少な昆虫やコサギやカワセミもやってくる貴重な環境。



くにたち郷土文化館 国立市谷保6231 ☎042-576-0211 [B-4]

郷土の歴史や民俗、美術、自然に関する資料がそろった博物館。喧嘩を離れた静かな異空間が心地よく、企画展も随時開催。



国立市古民家(市指定文化財) 国立市泉5-21-20 ☎042-575-3300 [C-4]

城山公園内に、江戸時代の茅葺屋根・入母屋造りの民家を移築。囲炉裏や土間もあり、昔の暮らしの道具を展示しています。



郷土文化館グッズ

各種資料に加え、歴史や自然をデザイン化した手ぬぐいや絵葉書、市内でとれたハチミツなども販売中。お土産にぜひどうぞ。



本田家薬門(国登録文化財) 国立市谷保5122 [D-4]

江戸初期から続く本田家は代々、書家、医者などを輩出。この門は馬に乗っても通れるくらいの高さがあります(内部は通常非公開)。



城山さとのいえ 国立市泉5-21-20 ☎042-505-5190 [C-4]

城山公園の一角にある国立の農にまつわる情報発信拠点。イベントや収穫体験などを企画し、施設の貸出も行っています。



稲作体験水田 国立市泉5-21-20 [C-4]

古民家前の田んぼでは、6月の田植えから10月の稲刈りまで、小学5年生の稲作体験授業が行われます(農業委員会主催)。

郷土文化館&古民家の季節の催事

※は古民家で開催

- 1月 まゆ玉団子飾り※
養蚕の繭の豊作を願い、上新粉の団子とみかんをカシの木に飾ります。
- 2月 節分豆まき※
邪気を払い、無病息災を願って「福は内、鬼は外!」と豆まき。
- 3月 ひなまつり※
桃の節句の前には伝統のひな人形の段飾りを展示しています。
- 5月 端午の節句※
市民から寄贈された五月人形を展示。庭ではこいのぼりも泳ぎます。
- 7月 七夕飾り※
織姫・彦星の会出う年に一度の日。願いを書いた短冊を竹に吊します。
- 8月 わら草履づくり
「くにたちの暮らしを記録する会」の指導で谷保の稲わらでつります。
- 9月 十五夜団子づくり※
ススキを飾り、上新粉でお団子をつくって秋のお月見を楽しみます。
- 11月 千支の折り紙教室
翌年の千支の縁起物の動物を、折り紙でつくることができます。
- 12月 しめ縄飾りづくり
稲刈りが終わった後の稲わらで、自分だけの正月飾りをつります。